

事務事業評価シート(事後評価)

事業コード 08-03-02	事務事業名 集団回収活動の奨励事業	所管部課 みどり環境部 ごみ減量推進課
-------------------	----------------------	---------------------------

施策コード 環2-2	施策名 ごみ対策の推進	施策目標 できるだけごみを出さないという意識づくりや、ごみ減量化への取組を通して、環境負荷の少ない循環型社会の構築をめざします。
---------------	----------------	---

事務事業の概要	事務事業の目的	根拠法令等
	奨励金を交付することにより、集団回収運動を促進し、市民の資源有効利用についての意識の向上とごみの減量を図る。	<input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input checked="" type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等／補助の概要：補助団体の概要(団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要(国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額)等 ※該当する予算事業名・節目を明記する 市は、古紙・古繊維類及び缶類の回収を行う団体からの登録申請を受け、回収業者に回収を委託している。集団回収団体への奨励金は、回収業者に引き渡した量により1キログラム当たり7円を限度に上半期・下半期と年2回交付している。現在、登録団体は、369団体となっている。	
事業開始時期	13 年度	実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()

項目	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
事業費(A)		24,064	23,839	23,386	25,550
財源内訳					
国庫支出金・都支出金		0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0
その他 ()		0	0	0	0
一般財源		24,064	23,839	23,386	25,550
所要人員(B)	人	0.17	0.17	0.17	0.17
人件費(C)=平均給与×(B)	千円	1,388	1,374	1,374	1,388
臨時職員賃金等(C')	千円	0	0	0	0
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円	25,452	25,213	24,760	26,938
単位当たりコスト(E)=(D)/(資源物回収量)	千円	2	2	2	0

活動等指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
① 集団回収団体数	実績値 件	370	371	369	
②	実績値				
《指標の説明・数値変化の理由 など》 ほぼ数字的には横ばい状態である。これからの更なる新規加入の促進を図る。					
成果指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
一 資源物回収量	目標値				
	実績値	13,258	12,813	13,302	
二	目標値				
	実績値				
《指標の説明・数値変化の理由 など》 集団回収団体数が増加すれば資源物量も増え、ごみ減量に寄与することになる。					

事業環境等	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	回収業者によると、集団回収で収集された古紙は、集団回収団体の資源に対する意識が高いので非常に質が良いとのことである。 集団回収を行うことで、地域のコミュニティが図れるとの意見がある。(意見交換会にて)
	都内26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	<input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 26市で実施しており、回収品目によって奨励金の単価は異なる。近隣5市で1kgあたりの単価を比較すると中程度。
	代替・類似サービスの有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 代替・類似サービスはない。

事業コード 08-03-02	事務事業名 集団回収活動の奨励事業	所管部課 みどり環境部 ごみ減量推進課
-------------------	-------------------	---------------------------

施策コード 環2-2	施策名 ごみ対策の推進	施策目標 できるだけごみを出さないという意識づくりや、ごみ減量化への取組を通して、環境負荷の少ない循環型社会の構築をめざします。
---------------	----------------	---

【一次評価】

検証項目	ランク	一次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度 (緊急性)	2	<p>ごみの減量化を図る上で集団回収事業は有効な施策であるため、分別収集の促進と平行して実施している。</p> <p>この事業は地域の住民が集団回収を行うことで、資源物に対する意識の向上やごみの分別の促進及びごみの減量に寄与することができると考えているため、今後も継続実施をしていきたい。</p> <p>しかし、近年、集団回収の団体件数が横ばい状態となっているので、市報やホームページ等でのPRを強化し、団体数を増やす努力をしていきたい。</p> <p>なお、毎年1回、集団回収団体等との情報交換の場所として、意見交換会を実施しているが、頂いたご意見等を参考にして、有効な手段があれば取り入れつつ、集団回収団体への加入をさらに推進するような働きかけをしていきたい。</p>
	事業の必要性	3	
	事業主体の妥当性	2	
B	直接のサービスの相手方の相手方	2	
	事業内容等の適切さ	2	
	受益者負担の適切さ	2	
C	市民ニーズの把握	2	

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【二次評価】

検証項目	ランク	二次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度 (緊急性)	2	<p>集団回収を実施する団体数が減少したことについての原因分析と改善策を講じる必要がある。市内の大規模集合住宅は毎年一定程度新設されているので、集団回収の積極的な奨励を図るべきである。1Kg当たり7円の奨励金であるが、回収業者が資源として売払った際に手にする1Kg当たりの料金を品目ごとに検証し、真に資源化に資する品目の見直しも必要である。</p>
	事業の必要性	2	
	事業主体の妥当性	2	
B	直接のサービスの相手方の相手方	2	
	事業内容等の適切さ	2	
	受益者負担の適切さ	2	
C	市民ニーズの把握	2	

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【行革本部評価】

行革本部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>集団回収活動は、資源の有効利用についての意識の向上だけでなく、地域コミュニティの醸成にもつながる事業として評価できる。しかし、二次評価でも指摘されているとおり、最近では実施団体数が減少傾向にあることから、その原因分析を行って改善策を検討すべきである。</p> <p>また、事業費の約1/3を占める回収事業者への委託コストについて、実施団体間の回収曜日の調整による効率化等も含めて、抑制に向けた工夫に努められたい。</p>